

納税者番号の話

公平で公正な税制の実現と社会保障制度は重要な課題です。その為には正確な所得を捕捉する必要があり、納税者番号と社会保障番号との共通番号制度を作れば実現するという考え方があります。

果たしてそうなのでしょう

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2011年5月16日 (月) NO 194
地域から明るい未来を作ろう

すべての取引を番号で管理する考え方は、できないことはつきりしています。

国内取引はできたとしても、高額所得者が海外取引で完結してしまえば補足できません。

また、一般消費者の売上も仕入なのか消費なのかは、相手にはよく分かりませんし、どこかで線を引かざるを得ません。大きなコストがかかります。

プライバシー侵害

今回の共通番号制度は金融資産を含めた総合課税を前提にしているものでもありません。

社会保障の充実には共通番号制度でなく、本来すべき雇用の創出・改善が最優先の解決策です。

まず日本の現状は働きたくて

ければなりません。

また社会保障と納税者番号のように分野を超えて共通番号が普及すれば、一旦情報が流出すれば共通番号を基に個人の情報検索や名寄せは簡単にでき、プライバシーは守れません。

日本は絶対起きてはならないことが必然的のように？起る社会であります。心配のしすぎは当然です。いまどうして共通番号制度が、お上から押しつけられるのでしょうか。

それ自体が目的となつていくように思えます。従属国で見えざる「奥の院」の手が国内の官僚達に深く動いているようにも感じます。まさにこれは「原発導入」の国策、安全神話と酷似していると思つてあります。

経済現象は自然現象とは全く違います。

雨が降ったり晴れたりのような自然現象は、人間が考え作り出したものではなくあります。

しかし、経済現象は私たちが人間が作り出したものです。

景気が悪い、売上が不振、儲からない、人間がお互いに生み出したものです。

したがって、我々の考え方を転換すれば立ち直ることは可能

です。

難しい時代に経営者としての覚悟を決め、最大の努力で立ち向かきましょう。

そもそも零細企業は経済現

象に翻弄されやすいものですから、自らが経済現象に對し時代の方向を考えて気持ちも想定と準備をしなければ濁流に流されやすいのです。

また、世の中には濡れ手に粟

といったことは実際にはないものです。

起死回生の、もっともらしいうまい話はうまい話ではないものです。

せっかく築き上げたものまで失つて

しまう経済現象があります。

不況時の経済現象

